



奈良に
古くから伝わる
むかしばなしを
ご紹介します。

奈良の むかし ばなし

第
52話



故郷恋しと泣いたつり鐘

文・山崎しげ子

奈良県の北西にある大和高田市。市のほぼ中央を、古代の官道(国道)横大路が東西に走る。今の国道二六六号。桜井市から當麻へ。さらに竹内街道へと続き、難波へ至る。

その横大路に面して戦国時代、高田城が築かれた。江戸時代、この道は伊勢街道として、伊勢神宮をめざす「おかげ参り」の人たちで賑わった。今回は、そんな大和高田市にある不動院(大日堂)に伝わる鐘のお話。

*

昔、ある秋のこと。米が不作で年貢米が納められないとお百姓さんたちが困っていた。大日堂の和尚さんは、「仕方がない。お寺の鐘を売りなされ。これは、皆さんのご先祖さまが寄進されたもの。子孫の難儀が助かるなら、ご納得くださるやろ。」

つり鐘は、郡山のお寺に売られた。だが、鐘はもとのお寺が恋しいと、毎晩「うわん、うわん」と泣いた。困った住職は、道具屋に相談した。

そして今度は山城の国(京都)のお寺に買われていった。ここでも鐘は住職の夢枕に立ち、「ふるさとの大和の高田が見えん。もつと高いところがええ」とまた泣いた。

檀家たちが集まって相談した。「つり鐘に彫られた銘文の文字を削り取ってはどうか。銘文には村人たちの魂がこもっているに違いない。」

さっそく職人が呼ばれ、文字が削られた。すると、なんと不思議や、その日から、つり鐘は泣くこともわめくこともなく、よい音色を村中に響かせたという。

*

本堂の外陣に入ると、磨き込まれた広い板の間。奥が、内陣。ご本尊の大日如来像は鎌倉時代の秀作だ。

市街地の中にありながら、これほど落ち着いた静かな空間があったことに驚かされる。故郷を恋しがったつり鐘の鐘楼は、かつてこの本堂の西南にあったということだ。

物語の場所を訪れよう

「不動院」(大和高田市本郷町)へは…
JR和歌山線高田駅から南へ約400m
近鉄大阪線大和高田駅から南へ約800m



問 不動院 ☎0745-52-1669



桜まつり

大和高田市の高田川沿いの南北2.5キロにわたり桜並木が続く。毎年、3月末から4月上旬には見ごろを迎え、川沿いの大中公園を中心に桜まつりが開催される。



不動院(大日堂)

本堂は、連子窓に棧唐戸など中世の建築様式による簡素で落ち着いた建物。棟木の銘から、文明15年(1483)、高田城主當麻為長の建立と分かる。国の重要文化財。